



1 平成新山
2 イルカウォッチング
3 クルマエビ出荷風景

豊かな自然と共生する調和した「まち」と「いなか」

雲仙天草国立公園に含まれる本市は、豊かな緑や美しい海岸線に囲まれています。人々は自然とともに暮らし、その大切さを強く認識しています。

自然環境は、心と体の健康づくりや住みよい環境づくり、良質で安全な農水産物の生産など、人々の暮らしに深く関わっています。

市民生活の利便性を高めるま

ちづくりを進めるとともに、いたずらに都市化だけを指す過度な開発は抑え、本市の最大の財産であり地域文化の源でもある自然や生態系の保全に努めていきます。

この地域ならではの、この地域だけが可能な、太陽と自然に抱かれた明るく豊かで魅力的な「個性のあるいながづくり」を進めていきます。

自然・ひと



キリシタンの歴史と文化

本市には「島原の乱」終結の地と知られる原城跡をはじめ、日野江城跡やキリシタン墓碑など数多くの史跡が残されています。

日野江城跡は、戦国大名有馬氏の居城でした。有馬氏は1540年代には、島原半島から佐賀県小城市一帯を領有し、現在の長崎県、佐賀県に十一の支城を配置しました。

島原の乱は、1637年、天草四郎を総大将とした島原天草のキリシタン農民と浪人衆が、原城跡に籠城し、幕府の大軍を相手に約3カ月もの攻防戦の末、幕府に多大な損害を与えました。原城の籠城戦は、幕府の鎖国政策につながった日本史上の大事件です。



1 原城跡に建つ天草四郎像
2 吉利支丹墓碑（国指定史跡）
3 日野江城跡（国指定史跡）

歴史・史跡



輝きあふれる!! 南島原

国際色豊かな地域をつくる交流拡大

1562年、領主有馬義直が領内にキリスト教布教を許可、長崎開港前の1567年に口之津港に最初のポルトガル船が入港し、南蛮貿易が始まりました。

1580年、日本初のイエズス会の中等教育機関「有馬のセミナリヨ」が日野江の城下町に設置され、ルネサンス期の西洋教育が伝えられました。最大時には、130名もの少年たちがラテン語、ポルトガル語、日本語や音楽、地理学などの教育を受け、1582年日本で初めて天正遣欧少年使節がヨーロッパに旅立ちました。

少年たちが持ち帰ったものに、活版印刷技術や西洋音楽など様々な文化が渡来し、当時の日本で、国際交流の最先端地を形成していました。

また、現在では、旧町から引き続き与論町や小豆島町と交流が行われています。

日本初の鑄鉄金属活字使用の活版印刷機（複製）



1 天正遣欧少年使節像(京都大学附属図書館所蔵)
2 口之津港
3 銅版画「セベリアの聖母」

交流・文化



地域力を活かして自立するまち

本市は、「1億人のいぶくろ」と言われる島原半島にあります。豊かな大地に育つ様々な種類の農産物や有明海の新鮮な水産物など、農林水産業において、古くから豊富な生産物を供給してきました。また、歴史と伝統技術に育まれたそうめんも全国的に知られていて、他にも多くの特産品が生み出されています。

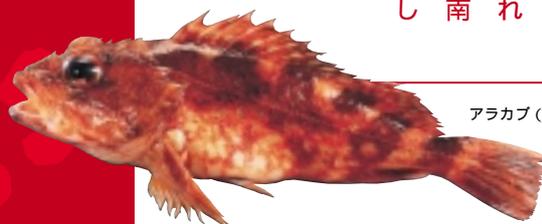
それらのブランド化を進め、付加価値を高めながら競争力や販売力を強化していきます。

また、各地域には、特色あるまつりが1年間を通して行われています。これらを通じて、南島原市を全国各地へPRいたします。



1 原城一揆まつり
2 島原手延べそうめん
3 ありえ浜んこらまつり

伝統・産業



アラカブ(カサゴ)